

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月15日

【評価実施概要】

事業所番号	0370500597		
法人名	株式会社 グランツ		
事業所名	グループホーム ぽっかぽか		
所在地	〒025-0072 岩手県花巻市四日町二丁目1番1号 (電話) 0198-21-3222		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成21年3月16日	評価確定日	平成21年5月15日

【情報提供票より】(平成21年2月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 5月 20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9 人	常勤 6人、非常勤 3人	常勤換算 6.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000~60,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費21,000円 等	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	315 円	昼食	315 円
	夕食	315 円	おやつ	105 円
	または1日当たり		1,050 円	

(4) 利用者の概要(2月25日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 81歳	最低	69歳	最高	87歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高木丘クリニック、とみつか脳神経外科クリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームの職員は、利用者の願いをかなえることを一つの目標として、ホームでの過ごし方や多様な場所への外出支援など、利用者または家族とのコミュニケーションの中から希望や意向を把握し、サービス提供につなげるように努めている。法人はグループホームの他に、小規模多機能型居宅介護事業所やデイサービスセンター、ヘルパーステーションなど複数の在宅福祉サービス等を運営しており、これらの有効な連携のもとでこの地域の福祉サービスの充実と多様化を図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	グランツの独自性や理念を職員一人ひとりが、真に自分のものとなるような手だてを考え実践し、運営推進会議を含め地域の人々との交流の活発化、利用者の家族とのより緊密なコミュニケーションといった課題についてさらに充実することを目標に取り組んでいる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が行った自己評価を職員全員で検討している。その中で評価の意義や気づきを大切にしながら、現に実践しているケアがどういった意味を持つのか、これからどういったケアが必要なかな等を評価項目と照らし合わせて検討している。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されておりホーム側から利用者の状況や、活動状況、行事などを報告し、地域の代表からは地域の行事等の情報を受けている。ホームで実施した避難訓練に参加した区長からは、何らかの災害が起きた時には地域の人たちの協力が大切であること等が話題となっている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族とのコミュニケーションは、ホームを訪れた時の面談や介護計画書を送る時に利用者の様子を添え書きするなどして頻繁に取られてる。利用者の家族は職員に対して面と向かって苦情等は言えないといった事情をも十分に理解し、面談の際には何気ない会話の中から運営への要望等を引き出せるように留意している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	閑静な古い住宅地の中に立地していることから、地域の人々との交流はなかなか困難なこともあったが、この地区の区長さんの尽力もあって自治会にも加入し回覧板配り等の役割を行っている。地区の行事にも積極的に参加し徐々に地域の人達との距離も近くなったと感じている。今後は、運営推進委員会等を通じホームで抱えている課題を地域の人たちと相談し協力が頂けるような関係を築いていきたいとしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「意思、能力、人生・人格の尊重、生活スタイルの尊重」という事業所理念を、職員が利用者を支援する際の基本的姿勢として定めている。また利用者のグランツ(願いをかなえるという意味)を目標に、ケアにあたっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新たにグループホームに配属された職員には、オリエンテーションの中で理念について十分に説明している。さらにミーティングの際に日常的なケアの中での気づきや課題を理念と照らし合わせながら検討するようにして、理念の共有と実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として活動するにあたっては、自治会への加入や回覧板配り等を行っているが、開設当初から徐々に近隣住民から理解を得て、気軽にあいさつを交わしたり、散歩の際には馴染みの人と談笑する光景が見られるなどの交流が図られている。また、地域の祭りにはできる範囲で積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が行った自己評価を職員全員で検討している。また職員全員が集まるミーティングの場で、評価結果をもとに評価の意義や項目ごとの気づきを中心に話し合い利用者のサービスの向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されておりホーム側から利用者の状況や、活動状況、行事などを報告し、地域の代表からは地域の行事等の情報を受けている。ホームで実施した避難訓練に参加した区長からは、何らかの災害が起きた時には地域の人たちの協力が大切であること等が話題となっている。	○	災害対策などを話題にする場合には委員以外の消防団とか駐在所の警察官等の出席を考えるなど、会議のテーマや参加者の幅を広げることによって、より有意義な会議となるように期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	花巻市から業務委託を受けている家族介護教室事業の実施を通して、市の行政担当者とは行き来をしている。また地域包括支援センターとは日常的に情報交換をしているほか、保健所で開催されるノロウィルス対策研修へスタッフが交代で参加しサービス提供に役立っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月作成しているサービス計画書を送る際に個人毎に利用者のこの頃の様子や変化等を記載して詳しく家族に報告している。また利用者個人の状況だけでなくホームや地域の行事等への参加や外出での様子等をお知らせしている。	○	写真などを添えたグループホーム便り(仮称)等を作り、定期的に利用者の家族に届け、ホームでの様子を報告することは、利用者や家族にとって、ホームとの関係をよりよいものに出来るのではないかと思われる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの意見や要望は出されていないが、家族が面会でホームを訪れたときには、何気ない会話の中からホームに対する要望等を汲み取る努力をしながら運営に反映させていきたいとしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動があった時には、職員間での引き継ぎをしっかりと行い、また利用者へ個別に十分な説明をするとともに、異動後にもホームへ立ち寄るなど、これまでの関係をすぐに断ち切らずできる限り利用者へ不安を与えないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の受講者はミーティングにて伝達研修を行っている。また、新任職員は法人の自己評価を行う中で研修や資格取得の希望を把握し、現任職員は段階に応じて研修の要否を決めるなど、職員の育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	花巻市ケアサービス事業連合会に加入しているほか、地域の介護教室や、グループホーム協会の定例会への参加、同法人間での交流を通じての勉強会などサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の申し込みがあれば、まず管理者が自宅等を訪問しアセスメントを行い、好きなこと嫌いなこと等を聞き取り、スタッフ会議で十分理解してもらい入居となる。またホームに慣れるまでは、家族の方にホームへの訪問をお願いするなど、家族と相談しながらなじみの関係を築けるよう工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の下ごしらえや配膳、洗濯物たたみなどを利用者の協力を得ながら行っている。また入所前の職業や経験から花の生け方や、野菜・花の種まきの時期や育て方などを教えてもらうなど、利用者と一緒に作業し、学んだり支えあう関係が築けるよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントのほか、生活歴や普段の表情から利用者の思いや希望を読み取るよう努めている。また、家族アンケートを行い本人本位のケアが出来るよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向や、家族・担当職員の意見、月1回のミーティングで他の職員の意見を聞くなどして、計画作成担当者が利用者の状態や意向に沿ったサービス計画案を作り、職員全員で話し合い、毎月の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティングや3ヶ月毎に見直しを行っている。これまでの計画では対応できない変化があったときには、本人や家族、担当者等を交えて相談し、常に利用者の状況に即した計画となるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法事や墓参、買い物や通院等、利用者一人ひとりの希望にあわせた外出・送迎支援をしている。また、正月や盆には家族と一緒に過ごせるように、自宅への送迎や家族のホームでの宿泊などの対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には利用者が入居前のかかりつけ医による受診が継続されており、職員による通院支援が行われている。やむを得ず変更する場合には、本人や家族に十分説明し了解を得てから変更することとしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアは、本人や家族の意向を確かめ、出来るだけ希望に添えるようなケアを続けたいとしており、主治医や協力病院と十分に連絡し合いながら急変時に対応できるよう職員ミーティングで方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレやお風呂を利用する時には利用者の羞恥心に十分配慮している。個人情報の使用の際には利用者や家族の同意を得ており、またその結果を記録している。なお個人情報が含まれる書類等は事務室にて保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日に利用者から出される買い物や理美容院利用等に関する希望に応じて外出支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主に土日は職員と利用者が一緒に下ごしらえや配膳をしたり、敷地内の畑で採れた新鮮な野菜を調理したりと楽しみながら食事の準備や後片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝から夕方まで毎日希望する時間に入浴できるが、就寝前の入浴を希望する利用者には、遅番の居る時間帯で対応している。今後は季節を感じることができるよう菖蒲湯等の実施や、外出を兼ねて温泉の足湯の体験も考えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下ごしらえ、配膳、後片付け、タオルや新聞たたみ等利用者ができる範囲で、楽しみながら出来ることを支援している。また園庭の農園での野菜や花づくりなども職員と一緒に、収穫時や花が咲いた時のことを話題にしながら楽しく作業できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、おやつを持参して近くの公園へ出かけたり、花見や雛祭り、白鳥見学、花巻祭りの見物など様々な場所へ外出支援を行っている。園内の農園での花や野菜の種まきや草取り、収穫など外での活動も、いつでもできるように取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を鍵をかけておらず、また居室に鍵は無い。職員は連携しながら利用者へのさりげない声かけや見守りにより行動を抑制することのないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災、地震の時の対応マニュアルを定め職員に周知するとともに、年2回日中を想定した避難訓練を実施し、災害時に備えている。また今回は自治会長の声かけにより、消防団の参加も得られている。今後は夜間を想定した訓練を行いたいとしている。	○	災害が起きたときには、何よりも近所の人たちの協力が欠かせないことから、運営推進会議等を通じ働きかけを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や栄養の摂取量は、毎食毎に記録しチェックしている。今のところ特別食はないものの、刻み食やとろみをつけた食事の提供など嚥下が不良の利用者への対応を行っている。栄養のバランスについては、法人の調理師が外部からの指導を受けながらメニューを作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや食堂等の共有スペースには、テーブルのほかソファやテレビ、オルガンなどがあり、利用者は思い思いの場所で自由に過ごしている。壁には絵画や季節の花、鏡餅とか水木団子、クリスマスツリーが飾られ、季節を感じながら居心地良く過ごすことが出来るよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使い慣れた箆笥やテーブル、仏壇や神棚などが持ち込まれ、利用者の思い通りに配置されている。		